

本庄早稲田の杜ミュージアム

全国的にも極めて希少な埴輪 弓形埴輪の公開を開始



本庄早稲田の杜ミュージアムでは、本庄市展示室の常設展示の一部を変更し、全国的にも極めて希少な弓形埴輪の公開を開始します。

この弓形埴輪は、高さ約80cmで、小山川クリーンセンター（東五十子地内）の建設工事に伴う発掘調査で出土した資料です。

公開日 1月29日（土）～

展示場所 本庄早稲田の杜ミュージアム本庄市展示室

開館時間 午前9時～午後4時30分

入館料 無料

休館日 月曜日（休日の場合は翌日）

問合せ先

- 本件記事に関すること 教育委員会事務局 文化財保護課 担当：松橋・太田
電話：0495（71）6878
- 広報全般に関すること 企画財政部 広報課 担当：鳥羽
電話：0495（25）1155

東五十子 19 号墳出土の弓形埴輪

■ 概要

出土遺構：東五十子 29 号墳（本庄市東五十子所在）

年 代：6 世紀後半

調査原因：児玉郡市広域市町村圏組合小山川クリーンセンター建設工事に伴う発掘調査

調査組織：東五十子遺跡調査会

調査時期：平成 9 年度

調査報告：『東五十子 川原町』東五十子遺跡調査会 2002（平成 14 年）

■ 東五十子 29 号墳

東五十子古墳群は本庄市東五十子地内の小山川を望む本庄台地上に展開する古墳群である。5 世紀後半から 6 世紀にかけて築造された直径 10～20m の小規模な円墳を主体に構成され、これまでの調査で 31 基の古墳が確認されている。弓形埴輪を出土した東五十子 29 号墳は直径約 17m の円墳で、周堀から円筒埴輪のほか家・鞆・大刀・人物・馬などの形象埴輪片が出土している。古墳の築造年代は円筒や家型埴輪の特徴から 6 世紀後半と判断される。

■ 弓形埴輪の特徴

本資料は基底部から粘土紐を円筒形に積み上げて下半の台部と上半の弓幹（ゆがら）を成形している。最上部に末弭（うらはず）を造形し、この部分に粘土紐を一周させた後、弓幹に沿って下方へ延ばし、弦は表現している。本弭（もとはず）に相当する部分は欠損し、どのような表現であったのかは不明である。台部は上位に一对の円形透孔がある。欠損している台部と弓の境界には、他例を参考に一条の突帯を復原した。復原高約 80 cm。

■ 弓形埴輪の評価について

弓形埴輪は全国的にもきわめて希少な資料で、これまでに群馬県内で 3 例が報告されているのみである。埴輪として弓を表現することの難しさが、製作数に反映しているとも考えられる。本資料は弓形埴輪を造形という困難な課題に挑戦した製作者たちの工夫の跡が窺える興味深い資料である。

群馬大学所蔵の高塚古墳出土例は、円筒形に成形した弓幹の先端に末弭を表現し、弦は末弭をひと回りした後、弓幹に沿って下方へ延びている。東京大学所蔵の高崎市岩鼻出土例も単体で弓を表現しているが、弓束を表し、弓腹に樋を刻み、弦を付している。藤岡市白石出土例は、砲弾状の本体側面に弓幹と弦を貼り付け、弓幹に弓束（ゆづか）を表現している。

東五十子 29 号墳出土資料は、弓束の有無を確認できないものの、単体で樋のない弓柄を表現している。末弭の形状も類似することから既存の弓形埴輪の中では、高塚古墳出土例に近い形状であったと推測される。